

# ミリオネアフロアブル

■種類名：インピルフルキサム水和剤  
 ■有効成分：インピルフルキサム----- 37.0%  
 ■殺菌剤分類：7

■登録番号：第24350号(住友化学登録)  
 ■毒性：医薬用外劇物  
 ■登録初年：2020.02.26  
 ■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：500ml×20本

## 【特長】

- テンサイ根腐病などのリゾクトニア病害やさび病、菌核病、灰色かび病など幅広い病害に安定した防除効果を示す。
- 浸達性、浸透移行性を有する。
- 多くの作物で収穫前日まで使用できる。

## 【適用内容】(2026年2月4日現在)

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
麦類 (小麦を除く)	雪腐小粒菌核病	2000~ 4000	60~150 ℓ/10a	根雪前	2回 以内	散布	4回以内 (根雪前は2回 以内、根雪後は 2回以内)
	赤さび病	4000~ 8000		収穫7日前 まで			
	うどんこ病	4000					
小麦	雪腐大粒菌核病 雪腐小粒菌核病	2000~ 4000	0.8 ℓ/10a	根雪前	2回 以内	無人航空機 による散布	5回以内 (種子への処理 は1回以内、 根雪前の散布 及び無人航空機 散布は合計2回 以内、根雪後は 2回以内)
	うどんこ病 なまぐさ黒穂病 ふ枯病	4000		収穫7日前 まで			
	赤さび病	4000~ 8000		32			
豆類 (種実、ただし、 あずき、そらま め、らっかせい を除く)、 豆類 (未成熟、た だし、さやえん どう、未成熟そ らまめを除く)	菌核病 灰色かび病	4000	100~300 ℓ/10a	収穫前日 まで	4回 以内	散布	4回以内
あずき そらまめ 未成熟そらまめ	菌核病、さび病 灰色かび病						
さやえんどう	うどんこ病 菌核病 灰色かび病 さび病						
結球あぶらな 科葉菜類(はく さい、キャベツ を除く)	菌核病	3回 以内			3回 以内		3回以内
はくさい	菌核病、尻腐病						
キャベツ	株腐病、菌核病						
ブロッコリー	菌核病 黒すす病						
レタス類	菌核病 すそ枯病 灰色かび病						

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬 の総使用回数
ばれいしょ	黒あざ病	400～ 1000	-	植付前	1回	種いも 瞬間浸漬	4回以内 (種いもへの 処理は1回以内、 植付後は3回 以内)
		400				10分間 種いも 浸漬	
		400～ 1000	種いも 100kg 当り 3ℓ			種いも 散布	
		40～ 100	種いも 100kg 当り 300 ml				
	夏疫病	4000	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	
やまのいも	青かび病 根腐病	200	-	植付前	1回	種いも 瞬間浸漬	1回
てんさい	根腐病	800	1ℓ/ペーパー ポット1冊 (3ℓ/m <sup>2</sup> )	定植前		灌注	5回以内 (灌注は1回 以内、散布は 4回以内)
	根腐病、葉腐病	4000	100～300 ℓ/10a	収穫7日前 まで	4回以内	散布	3回以内
にんじん	黒葉枯病 斑点病		100～300 ℓ/10a	3回以内			
たまねぎ	灰色かび病 小菌核病				4000～ 8000		
	灰色腐敗病	64	1.6ℓ/10a	株元散布			
ねぎ	さび病	4000～	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
	白絹病	8000					
	黒腐菌核病	黒腐菌核病 黒斑病 小菌核病 白絹病 葉枯病					
	黒腐菌核病						
	黒斑病						
小菌核病							
りんご	黒星病	4000	200～700 ℓ/10a	3回以内	3回以内	散布	3回以内
	すす点病						
	すす斑病						
	灰色かび病						
	斑点落葉病						
	うどんこ病						
	褐斑病、黒点病						
モニリア病							
赤星病							
ぶどう	黒とう病	4000～ 8000					
	さび病						
	うどんこ病						
	褐斑病						
	灰色かび病						

#### 【効果・薬害等の注意】

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法にあわせ調節すること。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ◆ 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ◆ 散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ◆ 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
  - ◆ 散布終了後は次の事項を守ること。
    - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に処理すること。
    - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。かかった場合3日間は給桑しないこと。無人航空機による散布で使用する場合は、給桑しないこと。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
  - 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
  - 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
  - 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ 施設内で使用する場合、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ること。
- ❖ 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ❖ 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- ❖ 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。
  - また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- ❖ 直射日光をさけ、食品と区別して、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管すること。